

令和5年度小平市立上水中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

本校の正答率は全国の正答率より 1.2 ポイント高い。「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国を 4 ポイント上回り語彙力が高いことがうかがえる。それに関連し、「読むこと」、「書くこと」は、全国より 4～5 ポイント高い。しかし「情報の扱いに関する事項」の正答率が全国や都に比べ低い。

課題

「情報の扱いに関する事項」の正答率が全国や都に比べ低いことから、意見と根拠、具体と抽象などの情報同士の関係について明確にとらえる力を養うことが課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

- 1 文章構成や接続語、言葉の言い換えなどに注目させ、情報を明確にとらえさせる。
- 2 目的に応じて書いた文章や相手に分かりやすく伝える文章で、自分の実生活や体験につなげて深く豊かなものにできるよう、例を挙げながら繰り返し指導する。
- 3 語意を文脈の中で生かしたり文の成分をうまく組み立てたりするには、朝読書で良書を選び、語彙力を付けることや教科書の音読を行うことが大切であると繰り返し伝え、実践させる。

【数学】

状況の分析

正答率は都平均より 3 ポイント上回る結果となった。領域別の平均正答率でもすべての領域において都平均を上回っていた。しかし、評価の観点による分析では技能の正答率が高いものの、思考力・判断力・表現力では都平均を下回っている。

課題

思考力・判断力・表現力をはかる記述式の問題に対する正答率が都平均を下回っており、課題があることが分かった。また、正答数の分布状況から、正答数が 0～1 問の生徒が都平均より多く、学力の差が大きいことも明らかになった。

学校で取り組む具体的な改善策

- 1 習熟度別少人数指導の利点を生かし、意欲的に取り組める課題の設定や、やる気を引き出す丁寧な指導を引き続き行う。
- 2 思考力・判断力・表現力を育むために、言語活動を充実させ、自身の考えを他の生徒に伝える等の機会を作っていく。

正答率は全国平均より4.4ポイント上回る結果となった。聞くこと、読むこと、書くこと共に全国平均を上回っており、書くことは8ポイント近く上回っている。また、話すことについても領域(3)、(4)共に10ポイント以上上回っている。ただ、聞くこと、読むことは都平均を下回っている。

買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題に対する正答率が全国平均を下回っており、課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

授業中、活動等にもよく取り組んでいる生徒が多く、基本的内容は理解できている。

- 1 「聞く力」の育成としてALTの授業を活用し、場面から内容の把握を行い、正しい内容を読み取ることができる練習を行う。その中で内容理解を図るためのポイントを指導していく。
- 2 「読む力」の育成として、教科書の本文や入試対策の長文を読む時間以外に、100語～200語程度の長文読解に継続して取り組ませ、短時間で集中して英文を読み取り、正しく答える練習を積み重ねていく。

【質問紙】

状況の分析

課題

○基本的な生活面「朝食を毎日食べていますか」については全国より1.9ポイント低く、さらに「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」については全国より11.4ポイント低く、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」については全国より15.3ポイント低い。

○学習面「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」については「よくしている」「ときどきしている」の合計が全国より6.2ポイント低い。その反面、平日の家庭学習の時間が2時間以上は全国を8.2ポイント高い。

○自己肯定感「自分には、よいところがあると思いますか」については全国より5ポイント高く、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」についても6.5ポイント高い。しかし、「人が困っているときは、進んで助けていますか」については全国より11.7ポイント低い。

○学習者用端末「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」については全国より13.4ポイント高い。また、「1、2年生のときに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」については「ほぼ毎日」が全国より39.3ポイント高い。

○地域参画「今住んでいる地域の行事に参加していますか」については全国より4.1ポイント低く、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」についても8ポイント低い。

○基本的な生活習慣が身に付いていない生徒が多く、学習塾や習い事に費やす時間が長くなっている。また、スマートフォンやゲームを長時間使用している生徒も見受けられるため、時間の使い方や家庭での約束を守る必要である。

○学習面では家庭学習に充てる時間は長くなっているが、計画を立てずに学習をしている生徒がいる。計画を立てることを身に付ける必要がある。

○自己肯定感が高い生徒が多い反面、他者を助けるという考えをもっている生徒が少ない。他者と協働することの大切さを実感させる必要がある。

○学習者用端末を使うことの良さを実感している生徒が多くなっている。また、使用頻度も高くなり、学習者用端末を使うことへの抵抗感をもっている生徒が少なくなっている。今後は情報モラルの面での指導を充実させる必要がある。

○地域参画では近年の事情で地域の催し物が減ってきている。その影響もあり、地域の行事に参加する機会が少なくなっている。また、地域のことを外国の人に知ってもらいたいと考えている生徒も少なくなっている。地域の良さを知らなかったり、地域行事に参加する積極性が欠けていたりする。

学校で取り組む具体的な改善策

○基本的な生活面については、保健の授業や保健だよりを通じて生活リズムを整える大切さを指導していく。また、食育について講師を招聘、講話を聞くことで、食事をとることへの関心を高めていく。

○学習面については、自宅学習をする時間がある生徒が多いので、学習の計画を立てる習慣を身に付けさせるために、定期テスト前の学習計画書を作成する際に計画の立て方についての指導を行う。

○地域参画については、地域行事のお知らせのポスターなどを掲示し、地域の活動を周知することで、地域の良さを実感させていく。